

【様式①】令和6年度 学校評価書(小・中・特別支援)

学校名 岐阜市立合渡小学校

校長名 山口 正尊

市の重点課題	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
希望あふれる未来を自ら拓く力を育むための教育課程の編成	・道徳を中心に、生命の尊厳への理解を深め、自他を思いやる心の育成に努める。 ・仲間との対話の機会を増やし、主体的・対話的で深い学びにつながる「学び合い」ができるよう、授業改善・学習指導の工夫を図る。	B	・道徳の授業だけでなく、日常的によりこと見つけを推進したり、異学年集団の活動を行ったりすることで、温かい人間関係をつくるとともに、自己肯定感、自己有用感を高めることができた。 ・授業の中に仲間との対話を意図的に位置づけ、仲間とともに学び合おうという姿勢をつくることができた。英語においても、コミュニケーションを大切にすることができた。	・道徳の授業では、児童が先生の話に耳を傾けて真剣に考えていた。 ・道徳は本当に大切な事柄。郷土愛を今以上にってもらいたい。 ・お互いを認め合うことが習慣づくとともによい。	・夢や目標につなぐ体験活動や生き方を学ぶ機会を充実させるため、地域に生きる方をはじめとした外部講師を招くなどして、体験的な活動の充実を図る。夢実現のための短期目標の設定やその振り返りを行う場を設定する。 ・授業の中での「学び合い」、生活の中での「よさ見つけ」を充実させ、温かい人間関係や自己肯定感、自己有用感を育てる。
コミュニティ・スクールの機能の充実と岐阜市型小中一貫教育の推進	・地域の人材や素材を生かした体験活動やぎふMIRAI'sでの学びの充実を図りながら、ふるさと教育を進める。 ・9年間を見通したカリキュラムの作成や幼保小中の情報交流をすることで、連携の強化を図る。	A	・地域の歴史探検、災害についての講話、障害者スポーツ体験・講話、車いす体験、えだまめ栽培、地域探検など、各学年において、地域や外部の人材を招いた講座や体験活動を実施できた。 ・小中や幼保小で、子どもたちの様子を参観したり、情報交流をしたりすることができた。	・コミュニティ・スクールの充実や各学年における講座や体験活動、大変しっかり取り組んでいただいている。地域との連携は不可欠。今後も継続・充実を希望する。 ・地域の歴史探訪において、子供たちの積極的な姿勢が見受けられた。	・地域とさらに関係性を強くし、学校教育に活用できる新たな素材や人材の開拓を進め、体験活動の充実を図る。 ・幼保小中でさらに情報交流や子供たちの交流を図り、連携の強化を進める。
あたたかさと働きがいにあふれる学校づくり	・「笑顔いっぱい学校」を目指し、職員のコミュニケーションを大事にして、学校全体がチームとして機能する教職員集団づくりを進める。 ・勤務時間や日課、会議等の見直しを図り、適切に業務が遂行できる環境づくりを進める。	A	・会議を精選し、放課後の時間に余裕を生み出すことで、職員のコミュニケーションの時間をつくり、学年会や学年部会などを充実させることができた。 ・情報交流を積極的にいながら、どんなときも迅速にチームで子どもたちと向き合うことができた。	・日頃から子供たちに向き合い取り組んでいただき感謝している。職員の笑顔が目立ち、大変すばらしいと感じた。 ・先生方が活き活きと働ける学校づくりを今後とも進めていただきたい。それが子供たちへの指導や明るい学校づくりにつながっていく。 ・先生方のコミュニケーションは、子供たちにもよい効果が出ている。	・職員の勤務時間や日課・会議等の見直しをさらに図り、職員が子供に寄り添い笑顔いっぱいの学校をつくれるウエルビーイングな職場環境をつくる。 ・交換授業、出張授業を実施する学年を拡大するなど、児童一人ひとりに、複数の教職員が関われる機会を生み出す。
災害、事故、感染症、生徒指導事案等に対する安全性の確保	・様々な災害や事故を想定し、命を守る訓練や引き渡し訓練、防災・安全教育等を行うことを通して、実践的な判断力・行動力の向上を図る。 ・組織を生かし、迅速かつ柔軟な対応ができるよう、マニュアルの整備や研修、訓練を行う。	A	・引き渡し訓練や様々な災害を想定した命を守る訓練を実施し、自分の身の守り方について児童が考え、行動することができた。 ・防災オリエンテーリングの実施を通して、6年生を中心に進めてきた防災学習を、他学年にも広げることができた。 ・季節に合わせて柔軟に日課を設定し、児童の安全の確保に努めた。	・防災学習の取組はとてもよい。前向きな対応をしていただいている。 ・いろいろな実践の様子がみられ、感心する。子供たちにも防災意識が深まり、大人が教えられる場面も見受けられる。今後も継続を。 ・消防職員を招へいし、起震車、消防車および救急車の展示など、種々工夫した活動はよかった。	・これからも6年生を中心として、防災教育を継続していく。 ・今後は、不審者対応訓練など防犯に対する訓練や学習などの充実を図る。 ・地域の防災組織と協働できるような体制づくりにも取り組んでいく。
教育環境と学校財務環境の整備及び効果的な活用	・タブレット端末をはじめとしたICT機器の有効活用が進むよう、活用事例の交流や研修を行い、教育DXの推進を図る。 ・学校配当予算の有効な執行、市への改善要望に努め、学習・生活環境整備を進める。	A	・ロイロノートやスタディサプリなどについて、使い方や活用事例の紹介などの校内研修を行い、授業や家庭での活用を進めることができた。 ・校内点検等や要望を基に、学校予算を有効に使うって修繕をしたり、市へ要望したりし、環境整備を進めた。	・タブレットなど有効に使っている子どもたちの姿、興味深く見学できた。ICTを活用した体制ができつつある。さらにノート等を用いて、より確実な力をつけることができるようになっている。誰一人として置き去りにしない環境を推進し続けてほしい。 ・ネイティブの発音を聞きながらの学習は非常にうらやましく感じた。	・児童や教職員がより快適に過ごせるよう、施設の修繕、必要な教材教具の購入など、学習・生活環境の整備を進める。 ・タブレット端末をはじめとしたICT機器の有効活用がさらに進むように、活用のための研修や実践交流の充実を図る。

HPアドレス: <https://gifu-city.schoolcms.net/goudo-e/>